

14時30分解禁

平成29年12月 全国百貨店売上高概況

平成30年1月23日

I. 概 況

1. 売上高総額	6,933億円余
2. 前年同月比	-0.6% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	80社 226店 (平成29年11月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,672,902㎡ (前年同月比:-3.9%)
5. 総従業員数	70,973人 (前年同月比:-4.3%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	5-7月 -0.1%、6-8月 0.5%、7-9月 1.2%、 8-10月 1.2%、9-11月 1.4%、10-12月 -0.1%

[参考] 平成28年12月の売上高増減率は-1.7% (店舗数調整後)

【特 徴】

12月の売上高は、株高に伴う資産効果による高額消費やインバウンドの他、歳末商戦が好調だったものの、主力の衣料品、食料品が前年に届かず、0.6%減と僅かにマイナスとなった。しかし、平成29年年間売上高では、既存店ベース(店舗数調整後)で0.1%増(5兆9,532億円)と、平成26年(0.3%増)以来3年ぶりに前年をクリアし回復傾向は続いている。

顧客別では、国内市場(シェア96.0%/1.9%減)が対前年減となったが、インバウンド(シェア4.0%)は45.0%増の279億円と過去2番目に高い売上高で、年間累計では46.3%増の2,704億円(平成27年・1,943億円以来2年ぶりに過去最高更新)と依然好調を維持している。

地区別では、10都市が富裕層消費の活況もあり、0.8%増と5か月連続プラス。12か月連続プラスの札幌・大阪を含む5都市で対前年増となった。一方、地方(10都市以外の地区)は3.7%減と全地区でマイナスし、さらに減少幅を広げる結果となっている。

商品別では、気温の低下を受け、コート・セーターなど引き続き防寒アイテムが好調の紳士服・洋品が2.2%増と2か月連続でプラスしたが、婦人服・洋品、子供服・洋品のマイナスをカバーするには至らず、衣料品全体では1.2%減とマイナスに転じた。雑貨(5.5%増)は、化粧品(13.9%増)と高額商材(美術・宝飾・貴金属:2.0%増)の好調を受け、13か月連続プラス。食料品はクリスマスケーキやおせちが好調だったが、生鮮食品の不漁不作の影響はいまだ消えず、全体では前年を超えることができなかった。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「12月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇強い寒気が断続的に流れ込んだため、全国的に気温が低く、西日本ではかなり低かった。北・東日本日本海側では降水量が多く、北日本や東日本日本海側では大雪となる時期があった。冬型の気圧配置となる日が多く、日照時間は北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少ない一方、東日本太平洋側では多かった。

(2) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(// ±0日)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数129店舗)

①増加した:43店、②変化なし:38店、③減少した:48店

(5) 12月歳時記(歳末商戦(クリスマス・年末年始商材)、歳暮)の売上(同上/有効回答数97店舗)

①増加した:20店、②変化なし:61店、③減少した:16店

全国百貨店 売上高速報 2017年12月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	693,314,887	100.0	-0.6 (-0.1)
10都市	483,772,791	69.8	0.8 (1.7)
札幌	18,603,183	2.7	4.8
仙台	9,132,754	1.3	-1.4 (-7.0)
東京	183,370,733	26.4	0.9
横浜	41,845,227	6.0	0.5
名古屋	44,380,587	6.4	-1.5
京都	28,254,479	4.1	-0.4
大阪	99,104,362	14.3	6.8
神戸	18,870,457	2.7	-26.8 (-1.6)
広島	15,136,140	2.2	-1.3
福岡	25,074,869	3.6	3.4
10都市以外の地区	209,542,096	30.2	-3.7 (-4.1)
北海道	2,087,360	0.3	-3.9
東北	9,544,258	1.4	-5.1
関東	93,421,683	13.5	-1.1 (-4.2)
中部	16,672,091	2.4	-1.2
近畿	26,581,013	3.8	-17.3 (-9.8)
中国	15,036,362	2.2	-1.3
四国	11,419,308	1.6	-1.0
九州	34,780,021	5.0	-2.3

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	693,314,887	100.0	-0.6 (-0.1)
紳士服・洋品	45,527,344	6.6	2.2 (2.2)
婦人服・洋品	111,695,845	16.1	-1.9 (-1.6)
子供服・洋品	11,739,857	1.7	-4.5 (-3.6)
その他衣料品	12,039,769	1.7	-4.2 (-4.4)
衣 料 品	181,002,815	26.1	-1.2 (-1.0)
身のまわり品	87,605,650	12.6	-1.9 (-1.5)
化粧品	53,068,737	7.7	13.9 (14.6)
美術・宝飾・貴金属	42,017,685	6.1	2.0 (2.3)
その他雑貨	25,124,273	3.6	-4.2 (-1.0)
雑 貨	120,210,695	17.3	5.5 (6.6)
家 具	6,104,808	0.9	-8.7 (-8.4)
家 電	1,241,800	0.2	1.2 (1.3)
その他家庭用品	19,165,688	2.8	-5.6 (-5.7)
家 庭 用 品	26,512,296	3.8	-6.0 (-6.1)
生 鮮 食 品	49,722,587	7.2	-2.7 (-1.9)
菓 子	67,485,984	9.7	-0.2 (0.5)
惣 菜	53,915,707	7.8	-0.6 (0.3)
その他食料品	73,437,924	10.6	-3.4 (-3.3)
食 料 品	244,562,202	35.3	-1.8 (-1.2)
食 堂 喫 茶	14,750,572	2.1	-2.7 (-2.0)
サ ー ビ ス	5,489,760	0.8	-5.8 (-5.6)
そ の 他	13,180,897	1.9	1.2 (0.9)
商 品 券	25,241,005	3.6	-5.8 (-5.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 0.8% (店舗数調整後／5か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -3.7% (店舗数調整後／8か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	0.8	0.5	5か月連続プラス
札幌	4.8	0.1	12か月連続プラス
仙台	-1.4	0.0	2か月ぶりマイナス
東京	0.9	0.2	2か月連続プラス
横浜	0.5	0.0	5か月連続プラス
名古屋	-1.5	-0.1	2か月ぶりマイナス
京都	-0.4	0.0	4か月ぶりマイナス
大阪	6.8	0.9	12か月連続プラス
神戸	-26.8	-0.7	4か月連続マイナス
広島	-1.3	0.0	15か月連続マイナス
福岡	3.4	0.1	5か月連続プラス
10都市以外の地区	-3.7	-1.2	8か月連続マイナス
北海道	-3.9	0.0	15か月連続マイナス*
東北	-5.1	-0.1	4か月連続マイナス*
関東	-1.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
中部	-1.2	0.0	7か月連続マイナス
近畿	-17.3	-0.7	10か月連続マイナス
中国	-1.3	0.0	2か月ぶりマイナス*
四国	-1.0	0.0	2か月ぶりマイナス
九州	-2.3	-0.1	2か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が13か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が24か月連続、食料品が7か月連続、衣料品と身のまわり品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が33か月連続、美術・宝飾・貴金属が9か月連続、紳士服・洋品と家電が2か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.6	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	2.2	0.1	2か月連続プラス
婦人服・洋品	-1.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-4.5	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-4.2	-0.1	26か月連続マイナス
衣料品	-1.2	-0.3	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-1.9	-0.2	2か月ぶりマイナス
化粧品	13.9	0.9	33か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	2.0	0.1	9か月連続プラス*
その他雑貨	-4.2	-0.2	8か月連続マイナス*
雑貨	5.5	0.9	13か月連続プラス
家具	-8.7	-0.1	3か月連続マイナス
家電	1.2	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	-5.6	-0.2	21か月連続マイナス
家庭用品	-6.0	-0.2	24か月連続マイナス
生鮮食品	-2.7	-0.2	45か月連続マイナス*
菓子	-0.2	0.0	2か月ぶりマイナス*
惣菜	-0.6	0.0	3か月連続マイナス*
その他食料品	-3.4	-0.4	4か月連続マイナス*
食料品	-1.8	-0.6	7か月連続マイナス
食堂喫茶	-2.7	-0.1	8か月連続マイナス
サービス	-5.8	0.0	2か月ぶりマイナス
その他	1.2	0.0	8か月連続プラス
商品券	-5.8	-0.2	82か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

平成29年12月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年1月23日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 833億円余
2. 前年同月比	0.9% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.8%(90.6%) : 非店頭2.2%(9.4%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成29年11月対比±0店)
5. 総店舗面積	844,760㎡ (前年同月比: -4.8%)
6. 総従業員数	18,044人 (前年同月比: -3.8%)
7. 3か月移動平均値	5-7月 -0.3%、6-8月 1.0%、7-9月 2.1%、 8-10月 2.5%、9-11月 2.7%、10-12月 1.5%

[参考] 平成28年12月の売上高増減率は-1.0%

【特 徴】

- (1) 東京地区入店客数は1.0%増と2か月連続でプラス。クリスマスや歳末商戦の関連イベント、他業種とのアライアンスによる優待企画などの集客施策が奏功した。これにより売上高も2か月連続プラスの0.9%増。株高で引き続き好調な高額商材が牽引した一方、中間層の消費マインドも好転し、一人当たりの購買単価は上昇傾向にある。
- (2) 東京地区の平成29年年間売上高は0.5%増(1兆6,087億円)と、平成27年(3.4%増)以来2年ぶりにプラスに転じた。このうち増勢が続いた雑貨は8.7%増と、全体に占めるシェアは、前年より1.6ポイントアップし20.6%となった。
- (3) 商品別では、気温が低めに推移したことから、防寒着を中心に衣料品が好調でほぼ前年を確保(0.1%減)。特に紳士服・洋品は9.4%増と高い伸びを示し、5か月連続プラス。ウール、ダウンなど各種コートの他、一部春物衣料にも動きが見られた。婦人服・洋品も堅調であったが、人気の高い商品には品薄感が見られた。
- (3) クリスマスやボーナスニーズを受け、雑貨は8.1%増と13か月連続プラス。時計・宝飾等(美術・宝飾・貴金属/1.9%増)や、スキンケア・リップ・コフレ(化粧品/14.5%増)は国内外ともに高い人気。その他雑貨では、アウトドア用品やスポーツ関連も好調。
- (4) 食料品はクリスマスケーキやおせちが好調で、菓子(0.3%増)、惣菜(1.5%増)ともにプラスし、前年並み(0.4%減)。歳暮については、ネット受注が伸長しており、店頭をカバーしている。
- (5) 1月中間段階の商況は、2.8%増(1/17)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 6店、②変化なし: 7店、③減少した: 6店
- (3) 12月歳時記(歳末商戦(クリスマス・年末年始商材)、歳暮)の売上(同上/有効回答数13店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 9店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年12月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	183,370,733	100.0	0.9
紳士服・洋品	14,845,354	8.1	9.4
婦人服・洋品	26,246,934	14.3	-4.6
子供服・洋品	2,513,809	1.4	-0.6
その他衣料品	2,810,354	1.5	-1.0
衣 料 品	46,416,451	25.3	-0.1
身のまわり品	25,440,292	13.9	-1.5
化粧品	15,618,453	8.5	14.5
美術・宝飾・貴金属	12,802,148	7.0	1.9
その他雑貨	7,849,363	4.3	7.0
雑 貨	36,269,964	19.8	8.1
家 具	1,927,996	1.1	-10.9
家 電	885,070	0.5	36.9
その他家庭用品	4,805,114	2.6	-8.1
家 庭 用 品	7,618,180	4.2	-5.2
生 鮮 食 品	8,713,345	4.8	-2.1
菓 子	16,595,318	9.1	0.3
惣 菜	12,766,821	7.0	1.5
その他食料品	19,183,868	10.5	-1.3
食 料 品	57,259,352	31.2	-0.4
食 堂 喫 茶	3,412,026	1.9	-3.7
サ ー ビ ス	2,278,095	1.2	-8.2
そ の 他	4,676,373	2.6	8.5

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	5,447,531 千円	1.6
従 業 員 数	18,044 人	-3.8
店 舗 面 積	844,760 m ²	-4.8

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が13か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が16か月連続、食料品が6か月連続、衣料品と身のまわり品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が33か月連続、美術・宝飾・貴金属が8か月連続、紳士服・洋品が5か月連続、家電が4か月連続、菓子、惣菜が2か月連続、その他雑貨が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.9	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	9.4	0.7	5か月連続プラス
婦人服・洋品	－4.6	－0.7	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	－0.6	0.0	2か月連続マイナス
その他衣料品	－1.0	0.0	3か月連続マイナス
衣料品	－0.1	0.0	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	－1.5	－0.2	2か月ぶりマイナス
化粧品	14.5	1.1	33か月連続プラス＊
美術・宝飾・貴金属	1.9	0.1	8か月連続プラス＊
その他雑貨	7.0	0.3	3か月ぶりプラス＊
雑貨	8.1	1.5	13か月連続プラス
家具	－10.9	－0.1	2か月ぶりマイナス
家電	36.9	0.1	4か月連続プラス
その他家庭用品	－8.1	－0.2	9か月連続マイナス
家庭用品	－5.2	－0.2	16か月連続マイナス
生鮮食品	－2.1	－0.1	22か月連続マイナス＊
菓子	0.3	0.0	2か月連続プラス＊
惣菜	1.5	0.1	2か月連続プラス＊
その他食料品	－1.3	－0.1	2か月連続マイナス＊
食料品	－0.4	－0.1	6か月連続マイナス
食堂喫茶	－3.7	－0.1	4か月連続マイナス
サービス	－8.2	－0.1	2か月ぶりマイナス
その他	8.5	0.2	5か月連続プラス
商品券	1.6	0.0	3か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

全国百貨店 売上高速報 2017年01月～2017年12月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	5,953,256,495	100.0	0.1 (-0.4)
10都市	4,118,205,059	69.2	1.2 (1.4)
札幌	157,937,723	2.7	3.5
仙台	78,585,776	1.3	0.6 (-5.4)
東京	1,608,700,986	27.0	0.5
横浜	356,760,526	6.0	0.4
名古屋	377,791,411	6.3	-0.4
京都	243,325,239	4.1	-0.1
大阪	809,736,136	13.6	6.6
神戸	153,039,453	2.6	-9.4 (-2.0)
広島	126,154,156	2.1	-2.4
福岡	206,173,653	3.5	2.5
10都市以外の地区	1,835,051,436	30.8	-2.3 (-4.3)
北海道	18,083,054	0.3	-6.0 (-36.5)
東北	91,547,061	1.5	-4.1 (-4.4)
関東	828,468,208	13.9	-0.8 (-4.7)
中部	140,908,332	2.4	-2.5
近畿	240,904,062	4.0	-8.5 (-6.4)
中国	133,410,562	2.2	-1.6
四国	96,068,060	1.6	-2.2
九州	285,662,097	4.8	-0.7

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	5,953,256,495	100.0	0.1 (-0.4)
紳士服・洋品	399,245,761	6.7	0.4 (-0.3)
婦人服・洋品	1,170,342,483	19.7	-2.8 (-3.5)
子供服・洋品	141,145,485	2.4	-1.7 (-2.3)
その他衣料品	129,064,797	2.2	-4.3 (-5.3)
衣 料 品	1,839,798,526	30.9	-2.2 (-2.8)
身のまわり品	775,792,039	13.0	0.1 (-0.5)
化粧品	512,278,404	8.6	17.1 (16.7)
美術・宝飾・貴金属	347,409,656	5.8	3.6 (3.0)
その他雑貨	220,443,897	3.7	-4.1 (-4.0)
雑 貨	1,080,131,957	18.1	7.7 (7.4)
家 具	62,472,677	1.0	-5.8 (-6.4)
家 電	14,529,774	0.2	-12.7 (-12.7)
その他家庭用品	177,552,765	3.0	-4.8 (-5.5)
家 庭 用 品	254,555,216	4.3	-5.6 (-6.2)
生 鮮 食 品	322,392,966	5.4	-2.9 (-3.4)
菓 子	464,026,485	7.8	0.4 (0.0)
惣 菜	364,392,657	6.1	-0.7 (-0.8)
その他食料品	505,194,558	8.5	-1.2 (-1.7)
食 料 品	1,656,006,666	27.8	-1.0 (-1.4)
食 堂 喫 茶	158,572,287	2.7	-2.1 (-2.7)
サ ー ビ ス	61,631,577	1.0	-1.6 (-3.1)
そ の 他	126,768,227	2.1	4.2 (3.8)
商 品 券	154,510,789	2.6	-4.8 (-5.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

東京地区百貨店 売上高速報 2017年01月～2017年12月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	1,608,700,986	100.0	0.5
紳士服・洋品	133,300,210	8.3	1.1
婦人服・洋品	278,858,876	17.3	-4.0
子供服・洋品	32,606,198	2.0	1.1
その他衣料品	29,012,874	1.8	-4.2
衣 料 品	473,778,158	29.5	-2.3
身のまわり品	228,568,115	14.2	-0.7
化粧品	157,254,825	9.8	18.6
美術・宝飾・貴金属	107,031,690	6.7	3.9
その他雑貨	67,250,085	4.2	-3.0
雑 貨	331,536,600	20.6	8.7
家 具	18,110,982	1.1	-13.0
家 電	10,125,429	0.6	2.7
その他家庭用品	46,945,257	2.9	-11.8
家 庭 用 品	75,181,668	4.7	-10.4
生 鮮 食 品	59,220,243	3.7	-4.1
菓 子	113,154,259	7.0	0.1
惣 菜	85,298,266	5.3	-1.2
その他食料品	131,965,490	8.2	0.8
食 料 品	389,638,258	24.2	-0.6
食 堂 喫 茶	36,946,732	2.3	-2.0
サ ー ビ ス	25,866,373	1.6	-2.1
そ の 他	47,185,082	2.9	15.1

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	34,647,871 千円	-1.0
従 業 員 数	220,218 人	-3.0
店 舗 面 積	10,230,572 m ²	-3.0

営 業 日 数	30.2 日	前 年	30.3 日
---------	--------	-----	--------

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>